

和讃と聞く

其の二八七

親鸞さまの

【本文】

ほうど
報土の信者はおほからず

けど ぎょうじゃ
化土の行 者はかずおほし

ぼだい
自力の菩提かなはねば

くおんごう るてん
久遠劫より流転せり

【意訳】

真のご信心を得て、真の浄土に往く
お念仏の人は多くありません。

つまり、真のご信心を得られないこと
が多いのです。

阿弥陀様を抛り所にするのではな
く、自分を抛り所にする限り極楽に
往くということも、成仏することも
ありません。

このために、果てしない昔から迷い続
けてきたのです。

【私の味わい】

コメディタッチで風刺の効いた映画に「ドントルックアップ」という作品があります。ある日、アメリカの天文学者は大変なことに気が付きます。非常に大きな隕石がこのままいくと確実に地球に衝突する。と。残された時間は6か月と14日であり、対策を行わない限り全生命が絶えてしまうのは明らかです。これは一大事とばかり関係各局に報告します。しかし、政治家は、醜聞の解決や選挙対策、支持率の影響などを考えて対処を後回しにしてしまいます。マスコミの方でも、芸能ニュースと同列に扱ひ、インターネット上ではエイクユースではないかと疑われ、果ては隕石に貴重な鉱石が含まれているから有意義に利用することはできないかという企業まで現れます。こうして無為無策と失敗を重ね、その日は刻一刻と近づいていく、という筋です。

この映画からは、物事の本質を見失うことの危うさを感じます。人間の生き死に、これを本来最優先すべきです。しかし、その本質を本質として受けとめられる人は少数派で、どこか自分の都合や色眼鏡で本質とずれたものの見方をしがちであるのも人間です。

極楽 あなたを連れ往く。これは私たちの生き死にの問題です。

この阿弥陀を抛り所にしてくれよ。

つまり、自分の色眼鏡を抛り所にしてくれるな、ということ。この映画を自分の

こととして考えたとき、あの物語は他人ごとだろうか。そう考えたこと。悠本